

令和5年3月23日

瀬戸市議会

議長 水野 良一 様

報告書

保育園の現状について

厚生文教委員長 長江 秀幸

1 はじめに

保育の充実は、子育て世代の定住促進にもつながる大切な取り組みであるが、本市では少子化が進行している一方で、保育園の待機児童が解消できないという、一見矛盾しているような実態がある。早朝や夜の延長保育、休日保育、病児保育、障害児保育など保護者である親の働き方の変化、また社会の変化に伴い、保育ニーズは多様化しているが、受け皿としての保育園は「保育士不足」「保育士の低賃金」「待機児童」などの課題が全国的にも共通してあげられている。

更に保育園は、乳幼児が安全に保育され、保護者が安心して子どもを預けられる場所でなければならないが、事故や事件のニュースも続いている。

当委員会では、子どもと親にとって安心・安全な保育が提供されるために、問題や課題を把握し改善につなげていくことを目的とし調査研究を行うこととした。

2 調査・研究の概要

(1) 実態調査

(1) -1 保育士アンケートの実施

① アンケート調査の概要

目的：市内保育園で働いている保育士から、保育園の現状と課題を聞き取り把握する。

調査項目：コロナ禍での保育について
保育園での子どもたちの安全と安心について
保育の質の向上について
上記について7つの質問と自由記述で調査

対象者：99名（公立保育園の正規保育士）2021年9月末時点

実施期間：2021年9月8日～2021年9月30日

回答方法：あいち電子申請・届出システム又はアンケート用紙に記入

② アンケート調査の結果

回答者数：73名（73.8%）

<アンケート結果から把握できた課題と対策> ※回答数の多い選択肢を抜粋

項目	課題	対策
コロナ禍での保育	感染予防業務が増大(86.3%) 自身・家族の感染不安(83.6%)	協力体制の構築(79.5%) 保育職以外の応援必要(61.6%)
保育の安全と安心	ヒヤリ・ハットした活動 園庭での活動(91.8) 食事の際(64.4)	保育士の増員(82.2%) 設備の改善(64.4%)
		増員が必要な業務 園庭での活動(66.7%) 保育の準備(58.9%) 行事の準備(47.9%) 食事の準備(47.9%)
保育の質の向上	保育士不足で時間に余裕がない(94.5%) 業務量が多い(保育以外の雑用等)(80.8%)	保育士の増員(94.5%) 業務の効率化(84.9%) 処遇改善(給与・休暇)(74.4%)

<自由記述>

※一部抜粋

項目	自由記述
コロナ禍での保育	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の配置基準の見直し ・「消毒業務の委託・保育運営の基準の提示と見直し ・コロナ禍での様々な制限が子どもたちの育ちに与える影響について不安
保育の安全と安心	<p>(ヒヤリハットについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任や園長が保育士欠員の対応をするため若い保育士の育成時間が確保できない ・どんな場面でも子どもの命に関わるリスクが潜んでいる ・熱中症対策とマスクの着用 <p>(増員が必要な業務について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の目による見守りで保育の質が向上

	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援児、複雑な家庭環境、食物アレルギー内容の多様化 ・休暇取得困難 ・育児との両立困難で離職率上昇 ・保育士1人ひとりの質の向上
保育の質の向上	<p>(効率化・分業について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務仕事の見直し、担任の業務を割り切って減らす ・パソコンの増設 ・現代の保育園に通う家庭の状況に合わせた行事や活動の見直し ・おもちゃの消毒や害虫駆除 ・手作りおもちゃを福祉施設等に依頼 ・書面にまとめなければならない研修が負担

(1) -2 待機児童について

③ 待機児童の実態

	待機児童数 (人)	隠れ待機児童数 (人)
2021年 (R3) 4月1日	19	68
2021年 (R3) 9月1日	31	129
2022年 (R4) 4月1日	0	82
2022年 (R4) 9月1日	38	142

瀬戸市では0歳児～2歳児の待機児童が多く、受け皿の整備が間に合っていない状況がある。

④ 保育園の定員と受入れ人数

2021年4月現在、民間保育園では総定員数1,040人に対して、958人(92.1%)の受入れとなっており、調整分も含めてほぼ定員に近い状況となっている。

同時期の公立保育園では総定員数1,300人に対して、1,070人(82.3%)の受け入れであり、教室はあっても保育士が不足しているため受け入れが困難な状況も発生している。

⑤ 統合保育(障害児や要配慮児を含む)の実態

障害児や配慮の必要な園児は2020年度の92人から、2021年度94人と増加している。その一方で、公立保育園の統合保育の担当保育士は、

2020年度は7人（正規4人・会計年度3人）から、2021年度は4人（正規4人・会計年度0）と減少しており、より丁寧な保育の必要な統合保育でも保育士不足のため受け入れが困難な状況が発生している可能性もある。

（2）先進市への視察

（2）－1 岐阜県瑞穂市（コロナの影響で視察は中止し書面による調査に変更）

子育て支援員の養成について（2022年1月実施）

<制度の導入に至った経緯>

待機児童数ワースト1の現状に対して、保育士不足は喫緊の課題と捉え、内閣府の地方に対する規制緩和の事例「保育の担い手となる子育て支援員の養成」を市独自で取り組み、養成研修中に就労募集の案内をしている。

<認定要件と研修内容>

子育て支援員研修(地域保育コース)基本研修2日、専門研修4日、実習2日

<研修後の支援員の業務>

7:30～11:30、15:00～19:00の時間帯で、各保育所で保育補助者として勤務。

<事業の効果>

- ・朝夕の保育士不足を補い、勤務環境の改善や負担軽減に繋がった。
- ・保育士の自己研鑽や事務仕事の時間の確保に繋がった。
- ・保育士からは高評価で離職防止にもなっている。

<課題>

- ・終了後の具体的な就労へつなげていくこと。
- ・保育観の相違があり、人間関係の構築に困難や精神的負担がある。

<事業費>

研修の実施等の委託料 1,149千円(2020年度)

<受講者と就労者数の推移>

年度	受講生	就労
2016年（H28）	28人	4人
2017年（H29）	22人	4人
2018年（H30）	21人	2人
2019年（R 1）	18人	4人
2020年（R 2）	14人	2人
合計	103人	16人

(2) - 2 神奈川県平塚市

保育士支援事業について（2022年11月実施）

<事業実施の柱>

インパクトある事業で「平塚市で保育士になりたい」と思ってもらい保育士不足を解消する計画とした。3つの柱（就労促進貸付金・就労支援交付金・奨学金返済支援補助金）を中心として、支援策、賃貸復権改修型保育所の整備などで保育士確保に努めており、保育士を目指している学生や、潜在保育士に対して制度の周知に力をいれている。

① 就職促進貸付金

他の市区町村から転入し継続して居住しながら、保育士として勤務する方に、最大100万円の貸し付け。5年間継続したら返済全額免除、3年継続で一部免除。

【実績】

年度	利用人数（貸付総額）	利用経過
2017年度（H29）	3人（300万円）	2人が5年満了
2018年度（H30）	4人（400万円）	1人が継続
2019年度（R 1）	3人（300万円）	1人が継続
2020年度（R 2）	9人（900万円）	8人が継続
2021年度（R 3）	9人（900万円）	9人継続
2022年度（R 4）	4人	※10月現在

② 就労支援交付金

平塚市で保育士として働く方に、月 1 万円の就労支援金を交付。1 年間就労継続で 12 万円、最大 3 年度分 36 万円交付。

【実績】

年度	交付総額
2018 年度(H30)	546 万円
2019 年度(R 1)	1,097 万円
2020 年度(R 2)	1,396 万円
2021 年度(R 3)	1,383 万円

③ 奨学金返済支援

奨学金を返済しながら平塚市で保育士として勤務する方に、1 年間の奨学金返済額の 2/3、上限 20 万円まで補助。最長で 5 年度分まで継続でき最大 100 万円の補助。

【実績】

年度	補助額
2020 年度(R 2)	200,000 円
2021 年度(R 3)	75,069 円

④ インターンシップ事業実施支援

実習先以外の保育園の職場の様子を知ってもらうため、インターンシップとして有償で働く学生を受入れるための支援。

【実績】

年度	補助額
2018 年度(H30)	530,821 円
2019 年度(R 1)	1,165,759 円
2020 年度(R 2)	784,978 円
2021 年度(R 3)	1,250,833 円

⑤ 保育士就職応援フェア

保育事業者のブースを来場者が自由に回り、各保育所の様子や採用情報などを直接聞くことが可能。年 4 回開催し開催時期は保育士養成校や保育所等と連携し学生が参加しやすい時期に調整。

<事業の効果>

- ・保育士支援制度の利用が徐々に増えてきており市外からの定住者が少しずつ増えている。
- ・インターンシップ制度の利用で、保育士と保育園のアンマッチが防止できる。

<課題>

- ・市のホームページだけでは周知が行き届かないため周知の強化。今後はホームページ上に特設サイトを設置し保育士確保事業等を知らせていく予定。
- ・保育の質の確保について調査は実施していないが、保護者からの苦情は減っておらず、保育の質の確保が課題である。

3 まとめ

本市の保育士の方々にアンケートを実施することで、現場の声と実態の把握ができた。

結果として「保育士不足」がキーワードとして浮かび上がり、保育士不足が子どもたちの安全安心、保育の質の面などの保育環境だけでなく、職場環境の面でも影響を及ぼしていることが分かった。女性の就業率は今後も上昇することが予想されるが、保育士不足が待機児童の発生の要因にもなっていることも明らかになった。

本市では、保育士不足を課題としての確に捉え、待機児童の解消をめざし、民間保育園に対しては、保育士確保を支援するため保育士宿舍借り上げ支援事業や保育士確保事業等を実施している。また公立保育園では、保育士の業務負担を軽減する目的で、保育支援システムを県内でも早期に導入している。業務の効率化で負担が軽減し、保育にかける時間を確保し質の向上や保育士不足の解消へとつながっていくことを期待しているが、根本的な保育士不足解消には至っていない。

調査を実施した瑞穂市、平塚市においても保育士確保に向けた事業に取り組み続けているが、不足は解消されていないという。瑞穂市の「支援員の養成と支援員の活用」や平塚市の「インターンシップ事業」等は一時的な負担軽減の効果が見込める可能性もあるが、支援員であり安定した効果は得られにくい。

保育士の確保が重要と考えるが、今回の調査から、保育士不足の要因は複合的なものであり、今後も国の支援と保育士確保に有効な対策を他市町との差別化を図りながら探っていく必要がある。